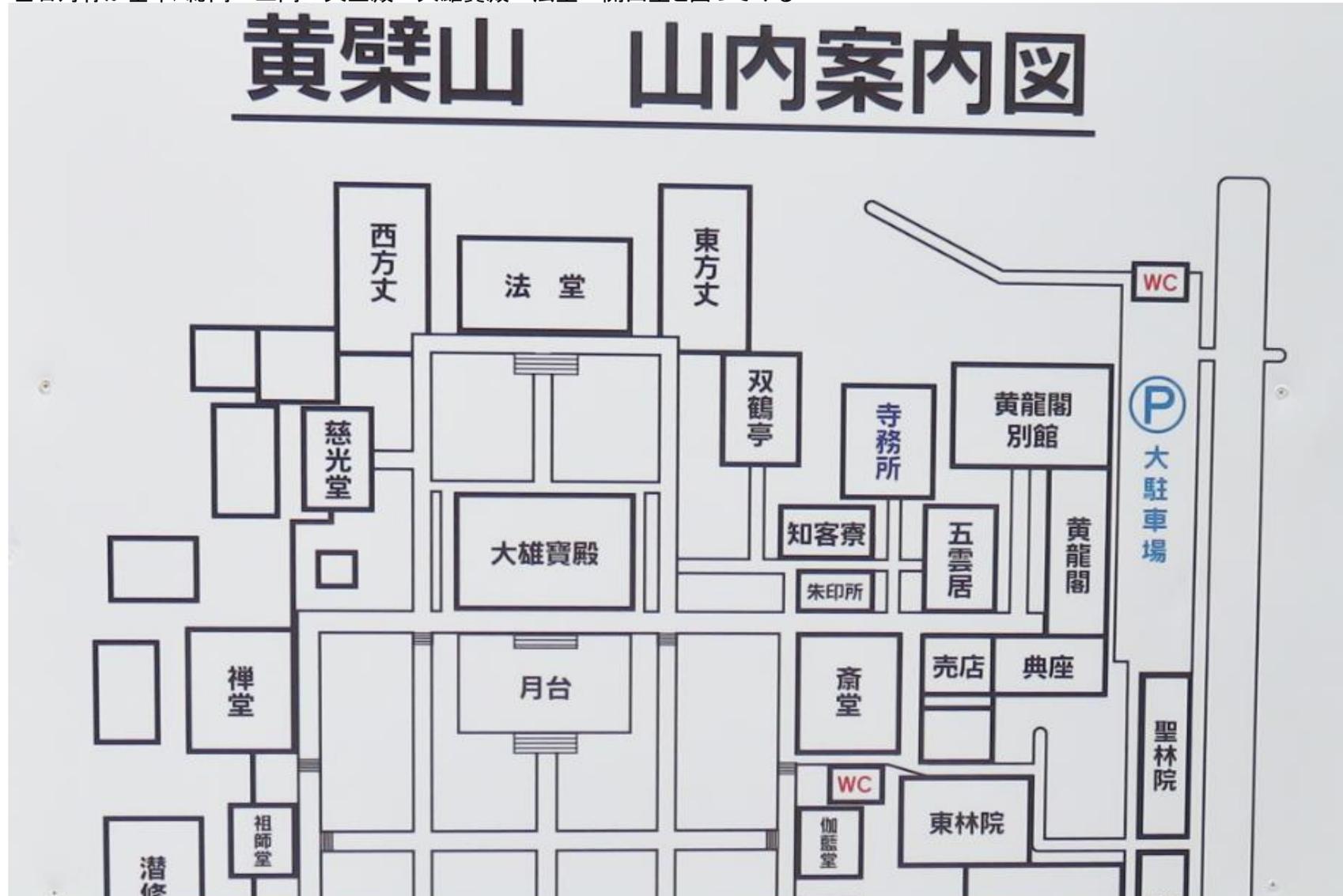
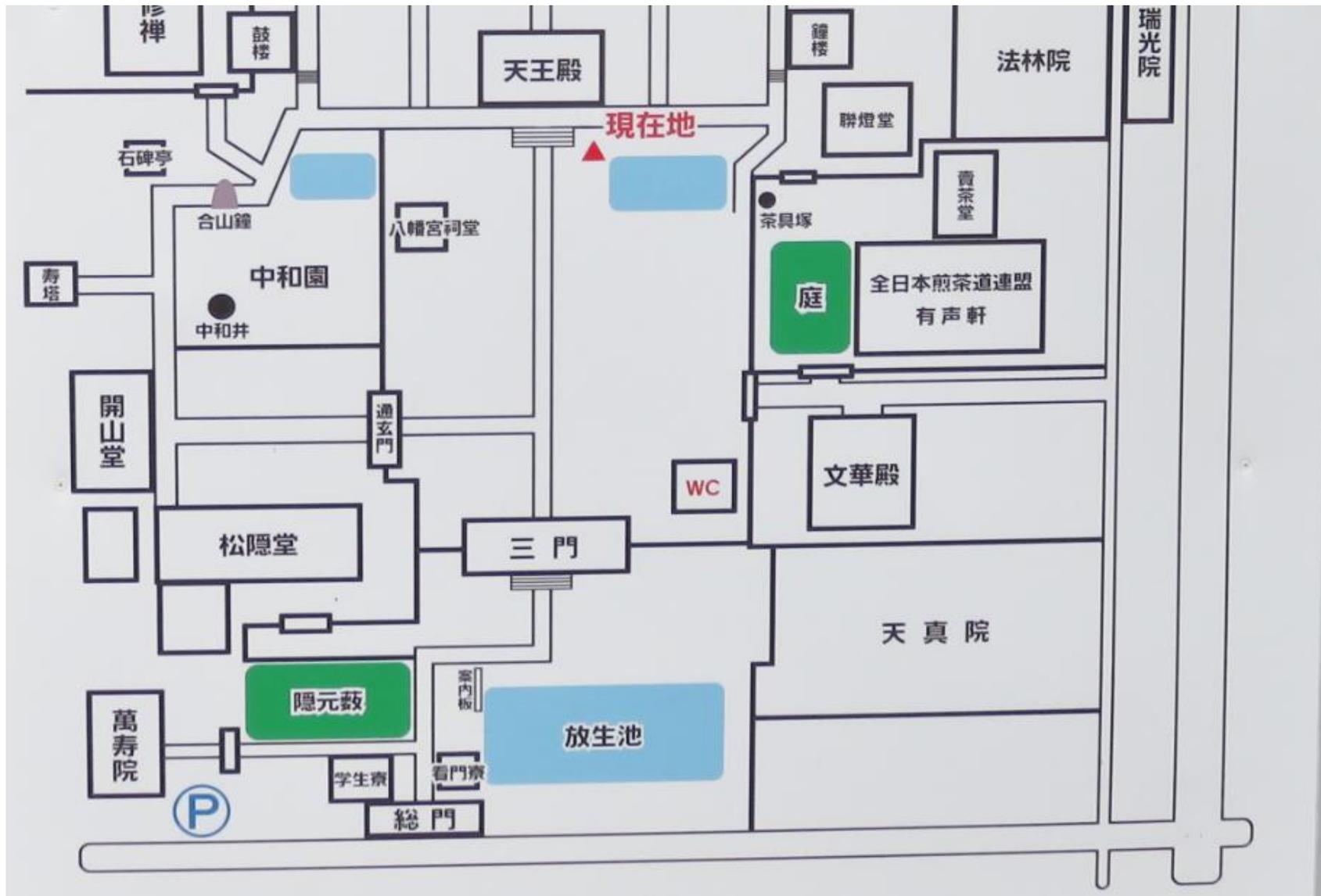


# 萬福寺(宇治市)

おうばくさん

黄檗山萬福寺の建造物は中国明朝様式を取り入れた伽藍配置で、主要建物23棟、回廊、額などが国の重要文化財に指定されている/配置は左右対称が基本/総門→三門→天王殿→大雄寶殿→法堂→開山堂と回ってみる





## 黄檗山萬福寺

Obakusan-manpukuji Temple

黄檗山萬福寺は、日本三禪宗の一つ黄檗宗の大本山で、江戸時代初めの寛文元年(1661)、中国の僧いんげんぜんじ隱元禪師により開山されました。

黄檗山萬福寺の名は、中国福建省にある黄檗山萬福寺に由来しています。境内には中国風の建物が並んでおり、それらの明朝様式の伽藍建築は、創建当初の姿を今にとどめる数少ない禪宗伽藍建築群として貴重です。また、中国風精進料理の普茶料理でも有名です。

塔頭たつちゆうの宝蔵院ほうぞういんには、鉄眼てつげんぜんじ禪師が17年もの歳月を費やして開版した一切いっさいきよう經版本が約6万枚収蔵されています。

これは総門



宗祖隠元禪師が日本に渡って来た中国の明時代末期頃の様式で造られており、中央の屋根を高くし、左右を一段低くした中国門の牌楼(ばいろう)式を用い、漢門とも呼ばれる



由緒書き



中央上部裏面には円相が型取られている



境内に縦横に走っている参道は、正方形の平石を菱形に敷き、両側を石條(せきじょう)で挟んだ特殊な形式であり、龍の背の鱗をモチーフ化したものと云う



これが円相で、風水的モチーフの一つ、「白虎鏡」



アップで見たところ



境内案内図



これは三門/三間三戸/重層の楼門造りで、左右に裳階(もこし)、山廊がある/大棟中央には火焰付宝珠が載る



これが火焰付宝珠



隠元書の「黄檗山」



隠元書の「萬福寺」



アップで見たところ



柱は円柱



丸い礎盤と四角い礎石



前方は天王殿(てんのうでん)



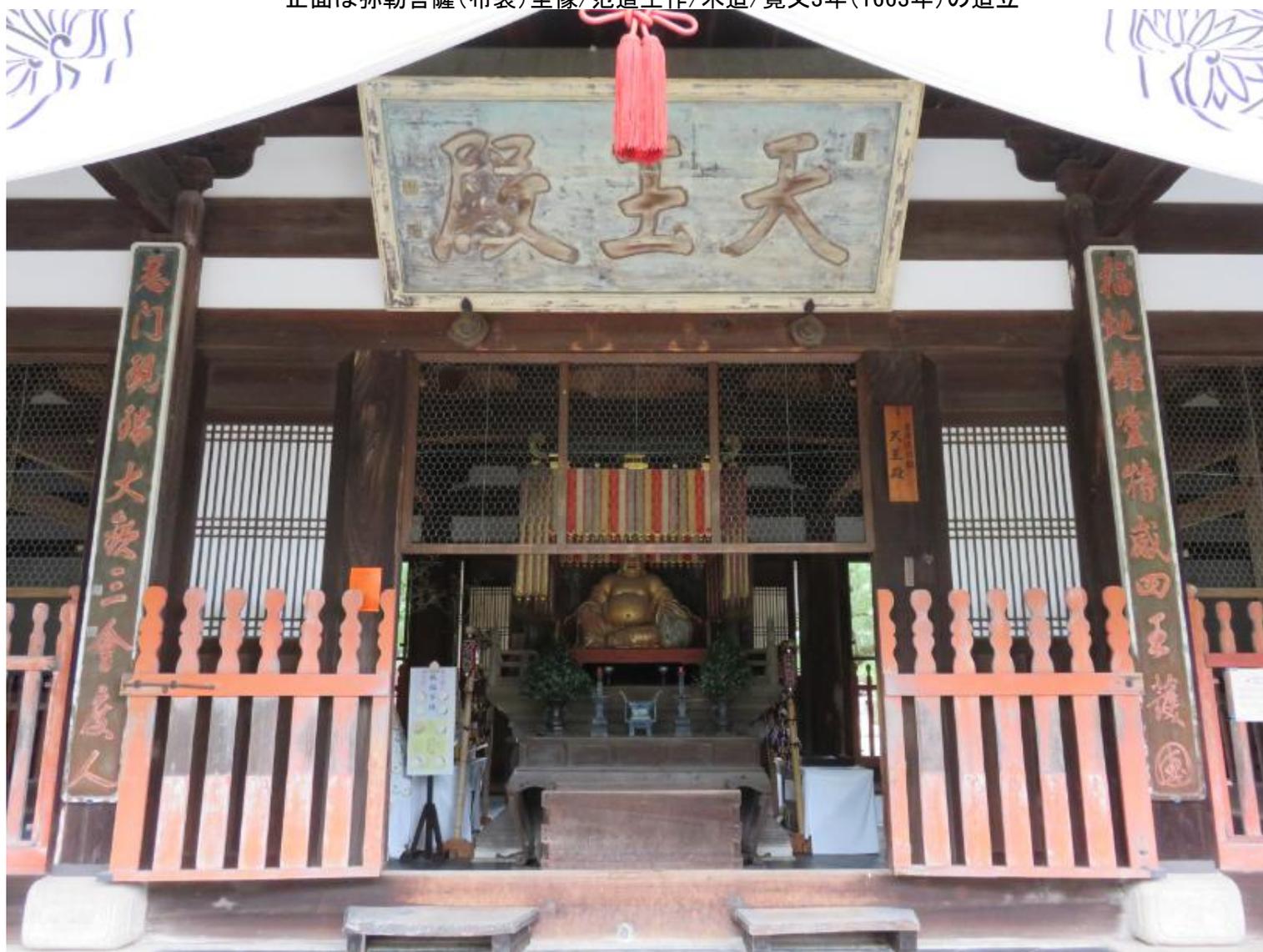
振り返って三門を見たところ



これが天王殿/玄関としての役目/×型の組子を入れた勾欄は、日本では特異な檜勾欄(たすきこうらん)で、チベット・中国で使用されているデザインと云う



正面は弥勒菩薩(布袋)坐像/范道生作/木造/寛文3年(1663年)の造立



アップで見たところ



床は四半敷き



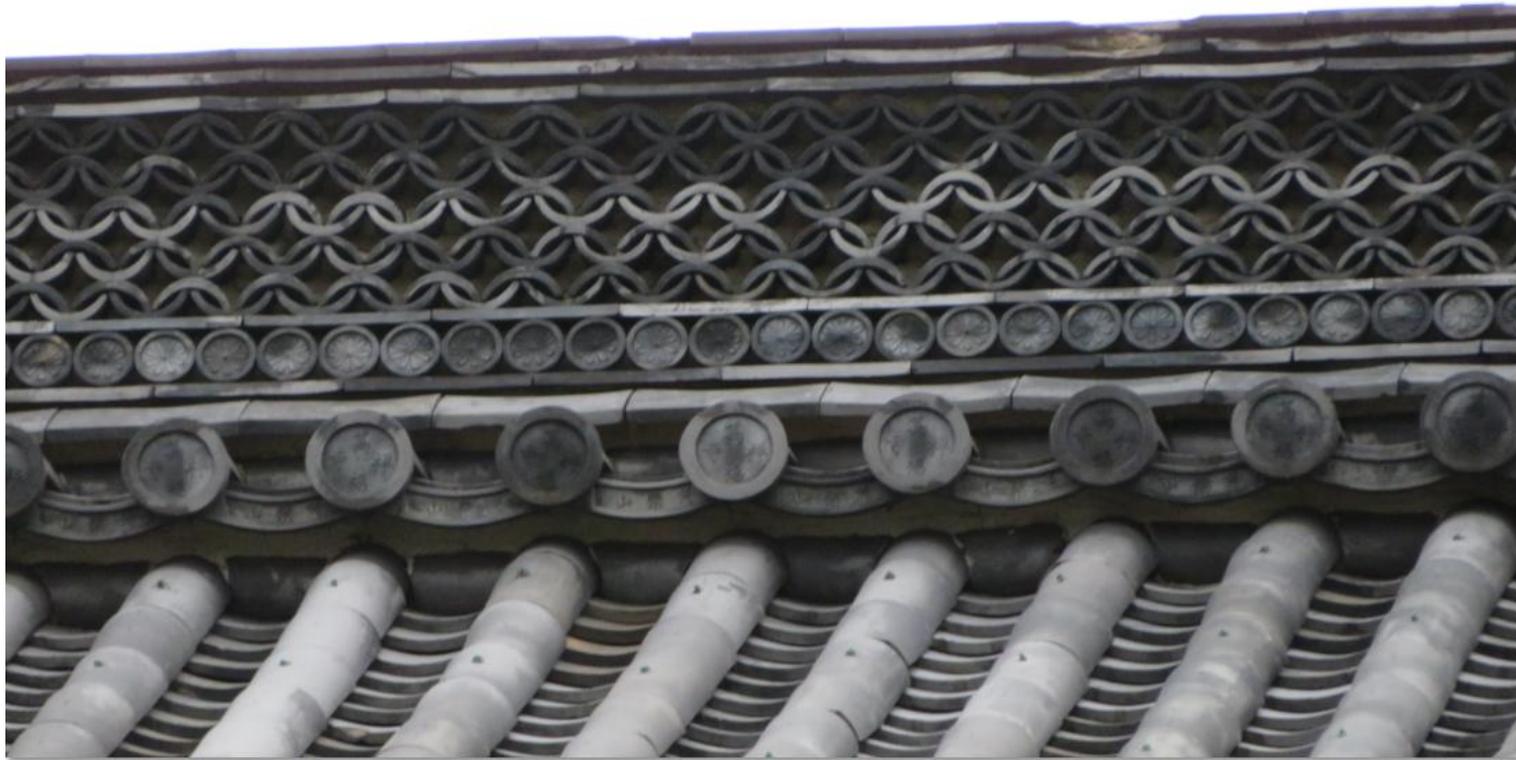
これが大雄寶殿/萬福寺の本堂であり、最大の伽藍/日本では唯一最大のチーク材を使った歴史的建造物/大棟中央に火焰付、二重の宝珠が載る/中国・韓国・日本で宮殿や寺院を建立する場合の最も基本となる建築様式は歇山重檐式(けっさんじゅうえんしき)と呼ばれ、外見上、二重構造に見えるが、下方の檐(屋根)は装飾であり、内部は単層構造になっている



左手から見上げたところ



大棟



隠元書の「大雄寶殿」



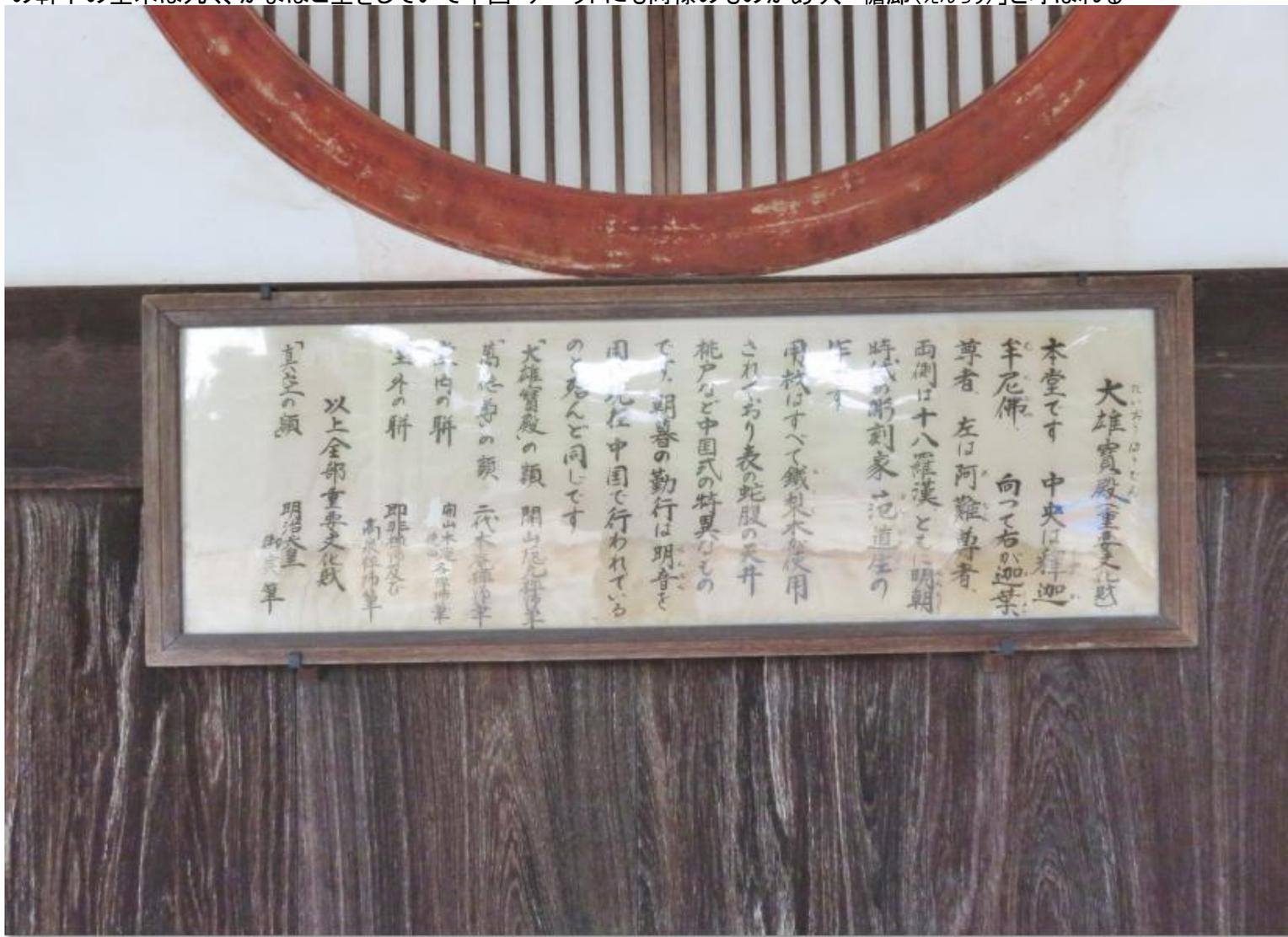
振り返って天王殿を見たところ



円形の窓がある



正面入口は魔除けとされる桃の実の彫刻を施した「桃戸」/左右に円窓/黄檗天井ともいう、龍の腹を表した蛇腹天井は正面一間分の軒下の垂木は丸く、かまぼこ型をしていて中国・チベットにも同様のものがあり、「檐廊(えんろう)」と呼ばれる



大雄寶殿重要文化財

本堂です 中央は釋迦牟尼佛 向つて右が迦葉尊者 左は阿難尊者 両側は十八羅漢とて明朝時代の彫刻家范道生の手作です

用材はすべて鐵梨木を使用されており表の蛇腹の天井 桃戸など中国式の特異なもの であり 朝暮の勤行は明音をとり 元在 中国で行われていたのと同じです

大雄寶殿の類 開山尼梅香

高心寺の類 元木を鎌倉平

土外の群 即非無所及び 高心保佛堂

以上全部重要文化財

明治天皇 御宸筆

これが蛇腹天井/丸く、かまぼこ型をした軒下の垂木



四角い柱に四角い礎盤・四角い礎石



本尊は釈迦牟尼佛/両脇侍は迦葉、阿難の二尊者/両脇に十八羅漢像を安置



十八羅漢像



明治天皇書の「真空」



十八羅漢像が並んでいるスペースは歇山重檐式(けっさんじゅうえんしき)と呼ばれる建築様式で、外見上は二重構造に見えるが、下方の檐(屋根)は装飾であり、内部は単層構造/いわゆる裳腰(もこし)となっている



内部も四半敷き



側面



四角い柱に四角い礎盤・四角い礎石のアップ



軒裏



背後から見たところ



これは法堂(はっとう)/説法を行う場所/「卍くずし」と呼ばれるデザインの勾欄



アップで見たところ



右手を見たところ



回廊が巡る



そこから法堂の妻面を見たところ



法堂内部



これは通玄門



標柱が立っている



扁額



これは開山堂/氷裂文の石畳(同じ形の石はまったくない)/白壁・卍くずしの勾欄・白砂などが目前に広がる



左手を見たところ



黄檗開山隠元禪師が祀られている



軒反り端部を見たところ



参考ホームページ

<https://www.obakusan.or.jp/>

<https://kyotopi.jp/articles/NtGYZ>

